

## ひと

## 児童養護施設を巣立つ若者を支える

はやし けいこ  
林 恵子 さん(37)

1月最後の土曜日。春に児童養護施設を出る男子高校生3人を、都内の一軒家に案内した。「すげえ!」。リフォームを終えた真っ白な壁の個室で声上がる。子どもたちに代わって契約した家を、安く提供する活動も2年目に入った。

2人目の子の育児休業を終え、人材派遣会社に職場復帰したとき、保

育園に迎えに行く時間が気になる働き方に、疑問をもった。社会の役に立つ会社をつくれなにか。

たまたま日本から撤退する外国企業にサルのぬいぐるみ1千個をもらえることになった。200カ所の施設にプレゼントを伝えたが、希望は10カ所もない。「子どもにはぬいぐるみが喜ばれる。そんな考えが、いかに浅はかかを思い知った」

施設に足を運んだ。半数以上の子が親から虐待を受けていた。帰る家はないのに、18歳になれば施設を出ないといけない。誰かが支えてあげなければ。新規事業として会社に提案したが、不採用。「ならば自分で」と2004年末にNPOをつくり、半年後に退社した。

スタッフ6人、登録ボランティア134人。巣立った64人の若者の仕事や生活相談にのる。「どうせ私の気持ちなんて分からないでしょ」。突き放されることもある。「それでもぶつかっていたい。人づきあいに臆病になつてほしくないから」

全国に広がったタイガーマスクの善意に共感しながらも、実情を知ることから始めてくれたらと願う。

文・佐々波幸子 写真・林正樹